

路地百選推薦書

推薦者氏名：志村 秀明

推薦する路地（のまち）の名称	月島の路地群、佃島の路地群
所在地	東京都中央区月島 1～4丁目、佃 1丁目

【推薦する理由（路地のよいところ）】

月島は路地の一大集積地である。1890年頃に一町街区で碁盤の目状に街割りされ、基本的な街路は市区改正条例の基準でつくられている。第一次世界大戦（1913年）頃に労働者住宅を大量に供給するために、街区を短冊状に区切って、路地と長屋がつくられた。これは街区サイズが大きいためで、大体一つの街区につき6本の路地がつくられた。月島地区（1～4丁目）だけで、総延長約5kmの路地がある。路地形成の経緯は日本の近代化の歴史のアーカイブで、路地の密度が非常に高いことも珍しい。

また路地は住民の共有庭のような存在で、植木鉢等のあふれ出しが多い。長屋には庭がないので、玄関や窓から内部の様子がすぐにうかがい知れる。都心に位置するため、昔ながらの路地や長屋は減ってはいるが、下町らしい風情と生活風景を目にすることができる。

推薦者と大学生達が路地のまちを守るために、住民や商店会、もんじゃ振興会と連携しながら、様々な活動をしていることも評価できるであろう。2年前には商店街沿いのマンション計画も阻止した。



路地 の 概 要	面積	月島地区のみ約 30ha	路地の延長	月島地区のみ総延長約 5km
	まちの成り立ち、特色等	<p>月島は東京における近代以降の最初の埋め立て地として誕生し、月島1丁目から4丁目（月島1号地）は1882年に埋め立てが完了した。人工の島であるため土地にはほとんど起伏がなく、街割りは碁盤の目状で規則正しく計画された。街の構成単位である街区の大きさは、日本の歴史的な街割りの約1町で、これは現在の単位では約120m四方に相当する。江戸の街割りと同様に、道路の中心線から次の中心線までが1町になった。そうすると街区の一辺が約60間（109m）となった。月島のまちを背骨のように走るメインストリート「清澄通り」は、市区改正条例の基準によるもので当初から幅36mある。この清澄通りに平行する方向で3間道路を通し、街区を半分に分割している。これは背割り道路の役目を果たしている。その結果、月島の標準的な街区は120m×60mとなった。この一つの街区を宅地化するために、標準で6分割し（間口約18m、奥行き約50m）中心に路地を通した。路地の幅は2から3mである。両側に約20軒の長屋が建設された。</p>		